

株主の皆様へ

# FUJIFILM NEWS

株主の皆様へ

最高益の達成に向けて！  
中期経営計画「VISION2016」は  
順調な進捗で最終年度へ

次の成長へ向けた  
戦略的な飛躍を目指す



Pick Up

世界の貴重なデータを未来へ  
残すために

## 「FUJIFILM LTO Ultrium7 データカートリッジ」



セグメントNEWS

当期も各セグメントで  
新製品を続々発売！



業績ハイライト

当社株主帰属当期純利益が過去最高に

セグメントの状況

イメージングソリューション、  
インフォメーションソリューションの  
営業利益が大幅に伸長



### 最高益の達成に向けて！ 中期経営計画「VISION2016」は 順調な進捗で最終年度へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
このたびの熊本地震により被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

当社グループは、コア事業であった写真フィルムの需要が激減した2000年以降、事業構造の転換を進め、安定的に利益やキャッシュを創出できる経営基盤を構築し、新たな成長フェーズに入りました。この強固な経営基盤をベースに、過去最高益の達成とROEの向上を目指して策定した中期経営計画「VISION2016」は最終年度を迎えました。新興国経済の減速や、英国のEU離脱問題にともなう経営環境の急激な変化など、不安定な状況が続くことが予想されますが、将来の成長に向けた重要な節目である中期経営計画「VISION2016」の達成に向け、全社一丸となり邁進していきます。

#### 2015年度（通期）の振り返り

2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）の業績は、光学・電子映像事業やフラットパネルディスプレイ材料事業などの売上が減少したものの、フォトイメージング事業、メディカルシステム事業、産業機材事業、電子材料事業などで売上を伸ばし、前年度並みの2兆4,916億円（前年度比0.0%減）となりました。営業利益は各事業における収益性の改善などにより、1,912億円（前年度比10.9%増）となり、「VISION2016」に沿って順調に進捗しております。

この順調な進捗に加えて、「VISION2016」後の成長を大きくけん引する事業分野である「ヘルスケア」では戦略的な取り組みを加速しました。医薬品事業では、抗がん剤「FF-10501」をはじめ、アルツハイマー型認知症治療薬「T-817MA」など、「アンメットメディカルニーズ」に対応した新薬の開発が順調に進捗し、2018年以降の上市に向け

手応えを感じる一年となりました。再生医療事業では、創薬支援向けなどにiPS細胞を提供する世界最大手のCellular Dynamics International, Inc.を当社グループに加え、業界をリードするポジションにあります。昨年10月には国内でiPS細胞ビジネスを展開するセルラー・ダイナミクス・インターナショナル・ジャパン株式会社を設立するなど、再生医療製品の開発加速、再生医療の事業領域の拡大を図る体制を整えました。

#### 今後の取り組み

2016年度（2016年4月1日～2017年3月31日）も、「VISION2016」の重点事業分野である「ヘルスケア」「高機能材料」「ドキュメント」を中心とした事業成長に加え、各事業における収益性の改善などにより、通期業績予想は売上高で2兆5,500億円（前年度比2.3%増）、営業利益は過去最高益となる2,200億円（前年度比15.1%増）の増収増益を目指します。

当社グループの企業改革は、計画に沿って順調に進んでいます。今後、6月1日付で代表取締役社長・COOに就任した助野健児が執行全般に対し責任を負い、CEOである私と共に、この路線をさらに推し進め、変化が激しい、且つ厳しい21世紀を通して、常に世の中にイノベティブな価値を提供し続けるために、成長戦略を一段と加速させていく所存です。

株主の皆様には、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2016年6月

代表取締役会長・CEO

古森重隆



## 次の成長へ向けた 戦略的な飛躍を目指す

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
代表取締役社長・COO就任に当たり、株主の皆様にご挨拶申し上げます。

私は、1977年に入社し、主として経理・財務畑を歩んできました。また、イギリスとアメリカで計12年の海外勤務を経験し、アメリカ駐在時には、写真フィルムの需要減に対応するための構造改革や成長事業を拡大させるためのM&AとPMI (Post Merger Integration: M&A成立後の統合プロセス)に携わってきました。その後、2012年から、執行役員経営企画部長として、当社グループの企業改革を支えてきました。

当社グループは2000年以降のデジタル化の進展に対し、古森会長・CEOの強いリーダーシップのもと全社一丸となり改革に取り組み、現在では、「ヘルスケア」「高機能材料」「ドキュメント」などの複数の成長事業分野を持つ企業に生まれ変わりました。2012年からは現場力の強化に重点的に取り組み、個々の事業の収益性を向上させて、強固な事業基盤の確立を図ってきました。そして現在は、業態転換のフェーズを超えて、次の成長を実現させるための戦略的な飛躍を目指す新しいフェーズに入っています。私は、このタイミングでCOOに就任するに当たり、次の三つの点に取り組み、企業価値を向上させていく所存です。

一つ目は「**新事業の強化・育成**」です。当社グループはこれまで、医薬品や再生医療、高機能材料など、将来に向けたM&Aや開発投資を積極的に実施してきました。これらのビジネスを軌道に乗せ、当社グループのさらなる成長を

支える中心事業として飛躍させることがCOOとしての私の使命です。今後も、M&Aや他社との協業など、必要な手段は積極的に進めていきます。

二つ目は「**効率的な経営**」に向けた取り組みです。今年度が最終年度となる中期経営計画「VISION2016」の一つの目標として、ROE7%を掲げています。特にR (Return) を伸ばすための「効率的な経営」に、こだわっていきます。常に「どうしたら効率的な経営ができるか」を念頭におき、無駄のない、スリムでしなやかな組織にしていきます。

三つ目は「**グローバル展開の強化**」です。現在当社の海外売上高比率は約6割ですが、新興国をはじめ、まだまだ海外でビジネスを伸ばしていく余地があります。私のこれまでの海外でのビジネス経験を生かし、従来以上にグローバル展開を加速させていきます。

当社グループの成長をけん引する新事業に対する思い切ったアクションと、常に効率的な経営を実現していく細やかな目配りとを同時に進めることで、株主の皆様のご期待に応えていきたいと考えています。

私は今後も、企業理念そして「VISION2016」の実現に向け、会長・CEOのもと、COOとして全力で経営に当たってまいります。

株主の皆様には、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2016年6月

代表取締役社長・COO

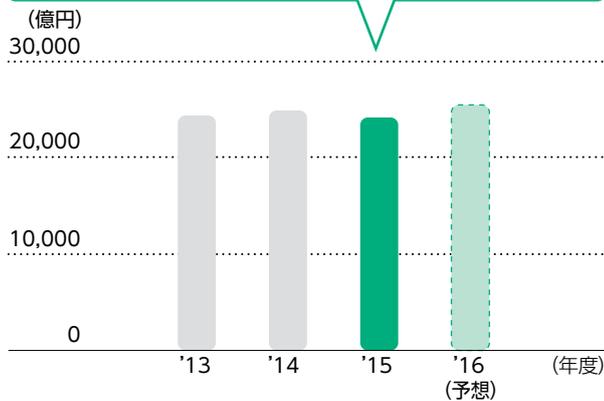
助野健児

# 業績ハイライト

## 売上高

**2兆4,916億円** →

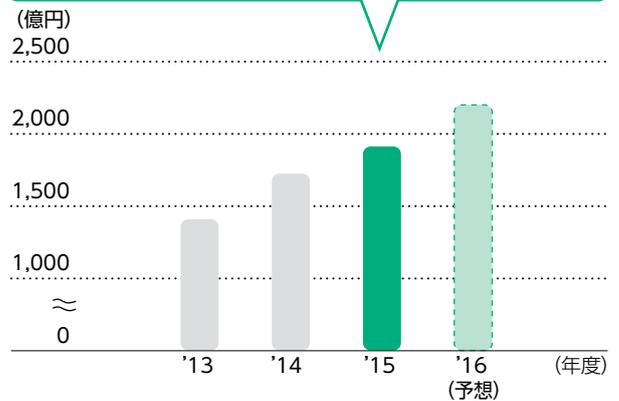
前年度比  $\Delta$  **0.0%**



## 営業利益

**1,912億円** ↗

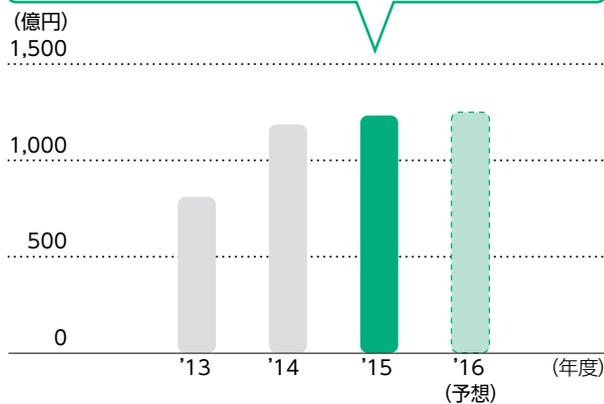
前年度比 **+10.9%**



## 当社株主帰属当期純利益

**1,233億円 (過去最高益)** ↗

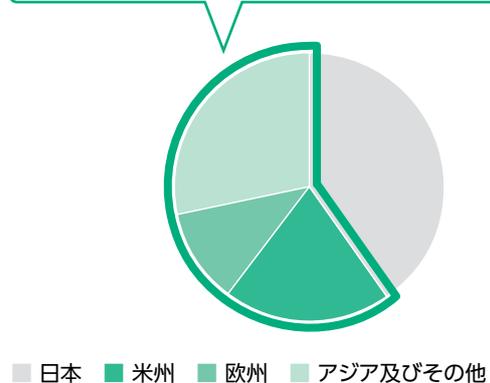
前年度比 **+4.0%**



## 海外売上高比率

**59.6%** ↗

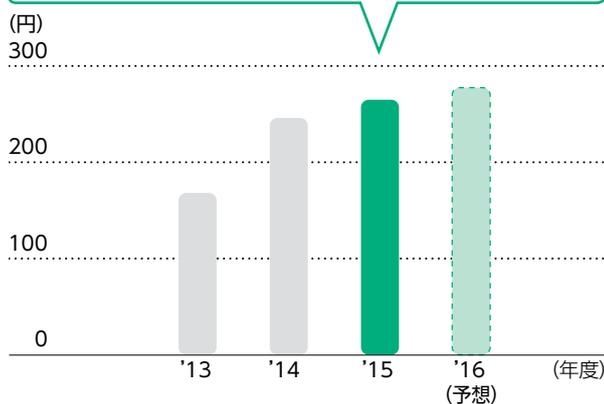
前年度比 **+0.8ポイント**



## 1株当たり当社株主帰属当期純利益

**264円87銭** ↗

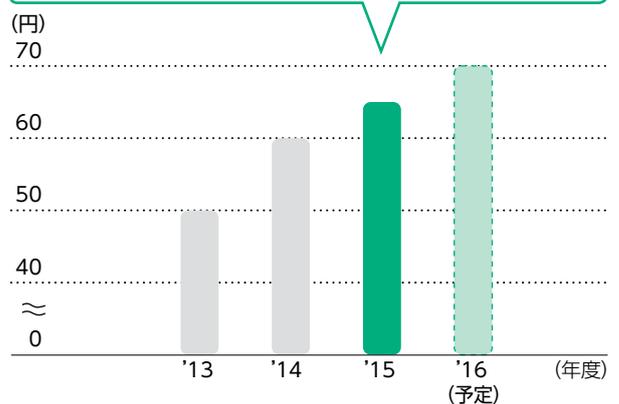
前年度比 **+18円93銭**



## 年間配当金

**1株当たり65円 (6期連続増配)** ↗

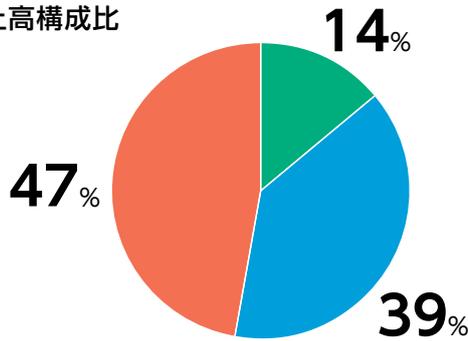
前年度比 **+5円**



# セグメントの状況

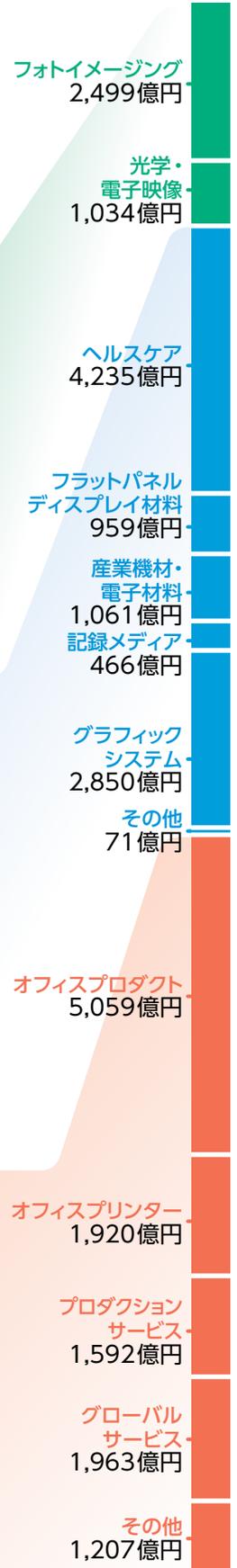
■ イメージング ソリューション ■ インフォメーション ソリューション ■ ドキュメント ソリューション

売上高構成比



売上高  
**2兆4,916** 億円

サブセグメント別売上高



## イメージング ソリューション

売上高 **3,533** 億円 (前年度比△2.1%) 営業利益 **322** 億円 (前年度比+55.5%)

### 業績概要

- “チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に大きく伸長
- 「Year Album」や「シャッフルプリント」などの付加価値プリントビジネスが拡大
- アジア地域での拡販が進んだ「Xシリーズ」の販売が好調に推移

### 今後の取り組み

- 他社に先駆けて発売した4Kカメラ対応の放送用ズームレンズをワールドワイドで拡販
- 「Xシリーズ」史上最高の画質と機動性を実現したフラッグシップモデル「FUJIFILM X-Pro2」を中心にシェアを拡大

## インフォメーション ソリューション

売上高 **9,642** 億円 (前年度比+1.1%) 営業利益 **941** 億円 (前年度比+16.0%)

### 業績概要

- メディカルシステムでは、医療IT、内視鏡、超音波診断などでの販売好調により、売上が増加
- ライフサイエンスでは、リニューアルしたジェリー状美容液「アスタリフト ジェリー アクアリスト」の販売が好調に推移し、売上が大幅に増加
- 産業機材では、「エクスクリア」や太陽電池用バックシートなど新規事業での販売が好調に推移

### 今後の取り組み

- フラットパネルディスプレイ材料では、タッチパネル関連など新規分野への展開を積極的に推進
- 電子材料では、先端製品のさらなる拡販や、連結子会社化したUltra Pure Solutions, Inc.の製品・有力顧客基盤も活用し、事業をさらに拡大
- 記録メディアでは、データアーカイブサービスのさらなる展開により売上拡大

## ドキュメント ソリューション

売上高 **11,741** 億円 (前年度比△0.3%) 営業利益 **949** 億円 (前年度比△6.4%)

### 業績概要

- オフィスプロダクトは、国内でカラー複合機の販売が好調に推移したことに加え、アジア・オセアニア地域でモノクロ複合機の販売が好調に推移
- 成長領域であるプロダクションサービス、グローバルサービスともに順調に推移
- 営業利益は、米ドル高による原価アップの影響などにより減益

### 今後の取り組み

- プロダクションサービス、グローバルサービスなどの成長領域の拡大
- アジア・オセアニア地域でのさらなる拡販
- 経費削減および原価改善施策を追加・加速することで収益性を向上

## 「Xシリーズ」誕生5周年の節目にフラッグシップモデル「FUJIFILM X-Pro2」を発売

スマートフォンの急速な普及に伴い、コンパクトデジタルカメラの需要が減少していく中、富士フィルムは技術力を生かした高級路線にシフト。Xシリーズ「X100」の発表以降、レンズ交換式カメラを含むラインアップ拡充とともに交換用レンズを取り揃え、従来の一画レフと比べ、小型・軽量・操作性の向上を実現しました。

2016年3月には「Xシリーズ」史上最高の画質と機動性を実現した「X-Pro2」を発売。新開発のセンサーとプロセッサ、超高画質フジノンXマウントレンズ、色再現技術を組み合わせて、卓越した写真画質を実現しています。



## タブレット型超音波画像診断装置「SonoSite iViz(ソノサイト アイビズ)」新発売

近年、超音波検査は、患者の身体的負担が少ない低侵襲の検査として、病院の検査室に加え、機器の持ち運びを伴う救急現場や在宅医療などでも用いられるようになりました。「SonoSite iViz(ソノサイト アイビズ)」は、小型・軽量でありながら7インチの液晶画面を装備しているタブレット型超音波画像診断装置です。優れた携帯性と、診断しやすい画面サイズを両立しています。

また、FUJIFILM SonoSite, Inc. の新画像処理回路によって、小型でも140万画素の鮮明で高精細な画像を実現します。豊富な診断機能を備えていますので、幅広い診療科で活用できます。



## 発売30周年！若者を中心に「写ルンです」に再び脚光

1986年に発売された世界初のレンズ付フィルム「写ルンです」は、どこでも持ち歩き、シャッターを押すだけで誰でも撮影できる気軽さで瞬く間に大ヒットしました。デジタルカメラやスマートフォンが普及している現在も根強い人気があります。

写真文化の裾野を広げた功績を評価され、2014年に「写ルンです」が重要科学技術史資料(未来技術遺産)に登録。メディアに紹介されたことをきっかけに、再び注目が集まっています。

発売当時のデザインを模した「30周年アニバーサリーキット」



## 「アスタリフト ホワイト エッセンス インフィルト」リニューアル発売

美白スキンケアシリーズ「ASTALIFT WHITE(アスタリフト ホワイト)」の美白美容液「エッセンス インフィルト」を2016年3月よりリニューアル発売しました。

富士フィルムは、シミの元となるメラニンの分解を助ける「オリザノール」を独自技術を用い、世界最小クラス20nmサイズで安定分散した「ナノオリザノール」の開発に成功しました。

本製品には、「ナノAMA」や「ナノアスタキサンチン」に加え、新たに「ナノオリザノール」を配合し、美容効果をさらに強化。輝きとハリに満ちた、透き通るような透明感のある肌へと導きます。



## 富士ゼロックスがカンボジアに営業拠点を開設

今後、大きな成長が期待されるカンボジアにおいて、複合機などのオフィス機器やドキュメントソリューションへの需要増加に対応するため、首都プノンペンに直轄の拠点「富士ゼロックス アジアパシフィック カンボジア支店」を開設しました。今回の拠点開設により、本国と同様のサービスを求める外資系企業や、カンボジアの国営・民間企業などに対し、お客様のニーズに応じた商品・サービスの提供を行います。

世界の貴重なデータを未来へ残すために

# 「FUJIFILM LTO Ultrium7 データカートリッジ」

## ビッグデータ時代の到来

昨今、高精細な4K・8K映像の登場によるデータの大容量化や、遺伝子解析・創薬におけるスーパーコンピューターの活用促進、あらゆるモノがインターネットにつながるIoT (Internet of Things) の進展などにより、世界中で生成されるデータ量は爆発的に増加しています。これに伴い、蓄積された大量のデータを安全に長期間保存しうるストレージ媒体のニーズも一層高まっており、その中でも磁気テープは、記録容量の大きさ、可搬性、省電力に加え、長期保存に適したメディアとして、

大手データセンターを中心に利用が進み、今後もさらなる需要増が期待されています。富士フイルムは、磁気テープの大容量化に貢献する最先端の磁性体である「BaFe (バリウムフェライト) 磁性体」を用いた磁気テープを世界で初めて実用化。昨年より発売している「FUJIFILM LTO Ultrium7 データカートリッジ」にもBaFe磁性体を採用しており、大容量記録、低コスト、低消費電力を特長としたアーカイブソリューションとして、注目が集まっています。



磁気テープは、  
他記録メディアに比べて  
**低コスト・低消費電力**

	導入コスト	消費電力量
磁気テープ	◎	◎
HDD	○	△
フラッシュメモリー	△	○

## BaFe磁性体採用 「FUJIFILM LTO Ultrium7」の特長

BaFe磁性体を用い富士フイルムが開発した「FUJIFILM LTO Ultrium7」は、1巻に非圧縮6テラバイト (DVD5万枚分) のデータが保存できます。

### BaFe磁性体の優れている点

#### 大容量化

磁気テープの記録密度向上には、テープに使用されている磁性体の微細化が大きく寄与します。BaFe磁性体のサイズは約20nm。従来の磁気テープに使用されていたメタル磁性体と比較してサイズが小さくなった分、より多くの磁性体を同一の表面積上に敷き詰めることが可能となり、その結果、**磁気テープの飛躍的な大容量化に成功**しました。

#### 長期保存性

メタル磁性体は微細化すると酸化による品質劣化が生じますが、BaFe磁性体はもともと酸化物であるため、酸化による劣化が起こりません。そのため**30年以上の長期保存が可能**です。

#### 記録安定性

繰り返し磁気テープを使用すると、テープを再生するドライブ内のヘッドが磨耗し、記録再生能力が徐々に弱まります。しかし、BaFe磁性体を使用した磁気テープは周波数特性が優れ、ヘッドからの磁気信号の記録・再生精度が高くなります。その結果、磨耗したヘッドを持つドライブでも、**安定したデータの読み書きが可能**になります。

### VOICE

#### さらなる大容量化を目指して

富士フイルムは2015年、テープドライブメーカーであるIBM社と共同で、微粒子BaFe磁性体を採用した磁気テープの大容量化研究を行い、塗布型磁気テープにおいて世界最大容量\*となる1巻あたり非圧縮220テラバイトのデータカートリッジ実現につながる画期的な技術開発に成功しました。

\* 2016年6月1日時点。富士フイルム調べ

今後も、世界中で生成されるデータは増加の一途をたどる目算です。貴重なデータを次世代へと引き継ぐために、引き続きBaFe磁性体の可能性を探るとともに、「ポストBaFe磁性体」の研究も進めていきます。

富士フイルム R&D統括本部  
記録メディア研究所

小柳 真仁



## 〈単元未満株式の買取制度〉

単元未満株式とは、1単元（100株）に満たない1株から99株までの株式のことです。これらは株式市場で売買することはできませんが、当社に対して買取請求をすることができます。

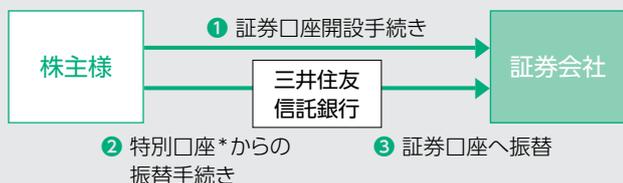
### ● 単元未満株式50株をご所有の場合



## 〈特別口座\*から一般口座への振替手続き〉

特別口座\*に記録されている株式を株式市場で売却することや、特別口座\*から新たに株式市場で株式を購入することはできません。株式を株式市場で売買するためには、特別口座\*から一般口座への振替手続きを行う必要があります。

### ● 振替手続き



\* 株券電子化実施前に「ほふり」に株券を預託しなかった株主様のうち、株式の記録先口座を提示しただけでなかった株主様の権利を保護するために、当社が口座管理機関（三井住友信託銀行）に開設した口座のことです。

## 〈お問い合わせ先〉

お手続きの方法および用紙のご請求は、三井住友信託銀行にお申し出ください。

 **0120-782-031** (平日 9:00～17:00)

## ● 株主メモ

事業年度末日 3月31日

定時株主総会 6月下旬

### 公告掲載

当社ホームページに掲載します。

URL (アドレス) は次のとおりです。http://www.fujifilmholdings.com/ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

### 株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内1丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

### 郵便物送付先／電話照会先

〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行っております。

単元株式数 100株

住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等のお申し出先株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申し出ください。

## 連結財務ハイライト

### 貸借対照表

単位：百万円

科目	2015年度末	2014年度末
資産の部		
流動資産	1,789,330	1,943,215
投資及び長期債権	343,809	380,917
有形固定資産	534,129	527,377
その他の資産	696,406	705,060
<b>資産合計</b>	<b>3,363,674</b>	<b>3,556,569</b>
負債の部		
流動負債	609,147	622,285
固定負債	470,695	466,868
<b>負債合計</b>	<b>1,079,842</b>	<b>1,089,153</b>
純資産の部		
株主資本	2,054,453	2,232,714
非支配持分	229,379	234,702
<b>純資産合計</b>	<b>2,283,832</b>	<b>2,467,416</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>3,363,674</b>	<b>3,556,569</b>

### 損益計算書

単位：百万円

科目	2015年度	2014年度
売上高	2,491,624	2,492,605
営業利益	191,179	172,398
税金等調整前当期純利益	194,529	197,102
当社株主帰属当期純利益	123,313	118,553
研究開発費	163,033	161,144
設備投資額*	74,143	56,127
減価償却費	121,354	122,909

\* ドキュメント ソリューション部門等のレンタル機器を除く。

### キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	2015年度	2014年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	221,869	263,731
投資活動によるキャッシュ・フロー	△155,710	△120,508
財務活動によるキャッシュ・フロー	△171,665	△45,593
為替変動による現金及び現金同等物への影響	△20,485	24,687
現金及び現金同等物純増加・純減少(△)	△125,991	122,317
<b>現金及び現金同等物期首残高</b>	<b>726,888</b>	<b>604,571</b>
<b>現金及び現金同等物期末残高</b>	<b>600,897</b>	<b>726,888</b>

### 「配当金計算書」について

配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

なお、「配当金領収証」にて配当金をお受け取りの株主様につきましても、配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

## ● お知らせ

### 第120回定時株主総会の決議結果について

2016年6月29日開催の当社株主総会において報告及び決議された内容につきましては、当社ウェブサイト (http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir\_events/shareholders\_meeting/index.html) に掲載していますので、ご参照ください。

## ● 会社概要

会社名	富士フィルムホールディングス株式会社
設立	1934年1月20日
資本金	40,363百万円 (2016年3月31日現在)
本社	東京都港区赤坂9丁目7番3号
連結従業員数	78,150名 (2016年3月31日現在)